

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男6

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立日川高等学校	<u>29</u>	17	—	17	博多高等学校
		12	—	11	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

先制点は博多高校 5番古賀によるポストシュートから流れを作った。それに続き 2番北里の連続得点で勢いに乗る。日川高校は連続得点を取られながらも、5番村田の得点で始まった。日川高校は追いつきたいところだが、博多高校 1番土肥の厚い壁により思うように点が伸ばせない。博多高校の安定した守りから早い攻撃により前半 10分で 4点差を広げる。日川高校が退場者を出しながらも素早い速攻から博多高校の守りを崩し 7m スローを奪い 2番佐藤が確実に決め前半 15分 1点差まで追いつく。両者高い守りから一進一退の攻防を続け日川高校 2番佐藤のスカイブレイにより前半 17-17の同点で折り返す。後半は日川高校の先制点から始まるが博多高校の好セーブと 7番濱田の安定したシュートから逆転し勢いに乗る。後半 20分日川高校 16番渡邊の好セーブから逆速攻を仕掛けるも博多高校の厚い守りから点を奪えず 24-24と同点の状況が続く。後半確実にシュートを決め続けた日川高校が 29-28で博多高校から勝利を勝ち取った。

30 年 3 月 25 日

記載者氏名 村本春香

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男7

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立四日市工業高等学校	16	10	—	10	市川高等学校
		6	—	9	
			—		
			—		
			—		
		7mTC			

四日市工業のスローオフで始まった試合は、互いの堅守が光るロースコアゲームとなった。まず市川高校8番の渡邊が先制。すぐさま四日市工業が追いつくも、その後は互いのミスも重なり、両チームともに一進一退の競り合いが続く。前半6分過ぎ、市川高校2番根本の速攻を皮切りに、市川高校が連続得点を決める。四日市工業は前半11分ごろに早めのタイムアウト。守備から市川高校の勢いを抑え、8番金子のシュートで同点に追いつくと、15番酒井、5番松田らのシュートで畳みかけた。対する市川高校も右サイドの4番上岡を軸に食らいつく。両者ともに流れを掴み切れないうまま10-10で前半が終了した。後半、市川高校の2番根本のミドルシュートで先制するとセットプレーから6番佐々木、8番渡邊の連続得点で一挙に4点を先取り、一気に流れを引き寄せる。猛追する四日市工業。しかし、堅守の市川高校の前にミスも多く、得点を重ねることができない。最終的には市川高校が要所を押さえ、リードを保ったまま勝利した。

2019年 3月 25日

記載者氏名 安藤 努

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男8

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
熊本国府高等学校	<u>27</u>	12	—	11	県立藤代紫水高等学校
		15	—	11	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

二回戦、初戦県立山形中央高校に勝利した熊本国府高校と県立藤代紫水高校との対戦。開始2分、

熊本国府高校15番渡邊の速攻で先制。しかし、すぐさま藤代紫水高校4番馬場のカットインシュート

で取り返す。どちらもミスが目立つ立ち上がり。互いに得点を重ね、前半12分4-4同点。県立藤代

紫水高校は、12番大山の安定したセービングから速攻という得意な展開に持っていきたいが、熊本国

府高校の粘り強いDFと1番濱崎の好セーブにより、差がつかない。12-11、熊本国府高校リード

で前半終了。県立藤代紫水高校は初戦の硬さを拭いきれないまま後半へと続く。

後半も取られては取り返す互角の戦いが続く。後半10分、15-15同点。両チーム流れを掴みた

いところだが、肝心なところでミスが出てしまい、勢いがつかない。後半12分、県立藤代紫水10番

林原の2分間退場をきっかけに、熊本国府高校は攻め込み、点差を広げる。後半16分、19-15熊

本国府高校リード。普段であれば、じりじりと点差を詰めていく県立藤代紫水高校であったが、その姿

はなかった。最終スコアは27-22、熊本国府高校が勝利した。

2019年 3月25日

記載者氏名 永田 真也

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男9

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立氷見高等学校	<u>27</u>	12	—	10	大分高等学校
		15	—	13	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

氷見高校のスローオフで始まったこの試合は、序盤今ひとつ調子が出ない氷見高校の立ち

上がりをついた大分高校は9番佐野の先制点から6連続得点を奪う形となった。しかし、

氷見高校に焦りはなく5番朝野、7番小島を中心とした攻めで徐々に大分高校を追い詰め

ていき前半24分に大分高校のミスからの速攻で逆転する。大分高校もすぐさま取り返す

が、勢いに乗った氷見高校を止められず、氷見高校の2点リードで前半が終了。

後半も氷見高校の勢いは止まらず、開始早々5番朝野の得点から始まり3連続得点を奪い

リードを5点に広げる。すかさず大分高校もタイムアウトを取るが、氷見高校の多彩な攻

めやスピードに乗った動きを止められず、氷見高校がそのまま振り切った。

H31年 3月 25日

記載者氏名 中島 貴規

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男10

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
駿台甲府高等学校	<u>27</u>	13	—	24	神戸国際大学附属高等学校
		14	—	24	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			
			<u>48</u>		

駿台甲府のスローオフで試合開始。先制点は神戸国際。相手のミス速攻で繋ぎ、

開始10分までに9-3とリード。前半12分で駿台甲府は堪らずタイムアウト。

波に乗りたい駿台甲府はサイドシュート、速攻などで得点を重ねていくが神戸国際

GKの好セーブが光り、なかなか連取にならず苦しい展開が続く。対する神戸国際は

セットでも速攻でも着実に得点を重ね前半を24-13で折り返した。

後半開始からも手を緩めない神戸国際は、アグレッシブなDFから速攻を連続で決める

など、多彩なパスワークからの得点で試合を決めにかかる。

遂に駿台甲府に反撃を許さず、そのまま神戸国際が勝利した。

2019年 3月 25日

記載者氏名 横川 恵子

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男11

男子 2回戦

会場 八潮エイトアリーナ コート

チーム名	総得点	7mTC			総得点	チーム名
札幌新陽高等学校	<u>15</u>	7	—	14	<u>27</u>	県立富岡高等学校
		8	—	13		
		7mTC				

先制点は富岡高校 2 番小金澤によるカットインで始まった。すぐさま新陽高校 11 番村上  
 が取り返し序盤から一進一退の攻防が展開される。新陽高校 12 番上原の好セーブから速  
 攻に持ち込み 11 番村上の得点で逆転する。富岡高校も力強い攻めにより 7m スローから  
 流れを引き込み前半 10 分で 2 点リードする。新陽高校 9 番加藤の連続得点、1 番梅津の  
 好セーブに苦しむ富岡高校だが 3 番松井のシュートで 3 点差に広げる。富岡高校の 13 番  
 大崎、14 番深澤、7 番新井のスピードある速攻を止められず前半 14-7 富岡高校リードで  
 折り返す。後半は新陽高校 4 番山本、9 番加藤の得点の勢いから富岡高校から 1 人減ら  
 すことに成功。富岡高校 1 番福のプレッシャーを与えるキーピング、10 番神戸、7 番新  
 井の上からの強烈なシュートにより後半 10 分で 5 点差に。新陽高校はスカイプレイを狙  
 うが富岡高校の狭い守りから狙いきれず得点に繋げられなかった。新陽高校の小さなミ  
 スをきっちりチャンスにした富岡高校が確実に点を伸ばし 27-15 で富岡高校が制した。

30 年 3 月 25 日

記載者氏名 村本春香